

平成29年度 学校評価報告書

学校名 (豊岡市立豊岡小学校) 校長名 (森田篤志 印)

1 学校教育目標

「させられる自分」から「する自分」へ
～肯定的なかかわりの中で～

2 学校教育推進の視点

- ① 子どもたちがなりたい自分をめざし、学びの主人公にするために、全教育活動の基盤に子どもの声を「聴く」、子ども同士を「つなぐ」、子どもを「ほめる」という「肯定的な関わり」の中で教育実践を行う。
- ② 「授業で子どもを育てる」という共通認識のもと、子どもたちに確かな個の力をつけるために、「授業における5つの『徹底・継続』実践事項」を柱に、「主体的・対話的で深い学び」の実践に努める。
- ③ 小中一貫教育推進のため、「ローカル&グローバル学習」の確かな実践を進めるとともに、南北中学校区での学習指導と生活指導の連携を強化する。

3 総合的な自己評価

一人一人の職員が目標を持って職務に励み、同僚性を発揮しつつ、組織的な教育活動を展開することができた。また肯定的なかかわりで、教師と児童、児童同士の信頼関係も構築できてきた。今後も特別支援教育の視点を教育活動の根底に置き、さらに児童のアセスメントに基づく支援の充実を図りたい。

4 自己評価結果 (A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・ 確かな学力を身に付ける学習指導	5つの継続・徹底実践事項の実践、学び合いの充実を図る授業展開	A	○5つの徹底・継続実践事項の質の向上(学び合いから個の力を高める)。
	・ 道徳教育	道徳教科科に向けた準備、道徳の授業公開	B	○評価の研修実施。特別の教科道徳として参観日等での授業公開。
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	ALTのネイティブな英語の授業、児童の英語力の高まり	A	○HRT向けの外国語研修実施。新学習システム(英語)導入と研究。
	・ 総合的な学習の時間	豊岡こうのとりのプランの「ローカル&グローバル学習」の実践	A	○年間指導計画の確実な実施と探究的な学習の実践の蓄積。
	・ 特別活動	異年齢の縦割班活動による責任感の醸成、児童集会の自主運営	A	○各委員会の発表の場の工夫。(全校朝会、児童集会等)
学校運営	・ 開かれた学校づくり	オープンスクール、参観日等での特色ある教育活動の発信	A	○ふるさと、英語、コミュニケーション教育の保護者や地域への授業公開。
	・ 勤務時間の適正化	定時退勤日の完全実施、職員会議等会議のスリム化	C	○全ての会議を1時間以内に終了するよう、開始・終了時刻の設定。
	・ 引継ぎ連携システムの強化	授業のUD化、幼小中の連携システムを機能させている	A	○全学年で授業のUD化と連携システムの確実な実施。
	・ 生徒指導(いじめや不登校の問題を含む)	年間重点目標の定着、教師と児童、児童同士の肯定的なかかわり	A	○児童の情報交換の定例化。あいさつ強化週間の実施。縦割掃除の日常化。
	・ 職員研修の推進	授業づくりと学級づくりの一体化、研修内容の日常化	A	○授業研究を日々の授業にフィードバックさせるための年間計画。
	・ 危機管理体制の整備	職員の危機管理意識、危機対応能力の向上	A	○様々な危機を想定した訓練の実施。(職員と児童の対応力の向上)
課題教育	・ ふるさと教育	年間指導計画に基づく着実な実践、体験活動の推進	A	○探究的な学習が展開されるよう、指導の工夫を図る。
	・ コミュニケーション教育	指導案に基づく実践と授業参観	A	○授業参観を通して、指導者の観察力と子どもへの関わりへの向上を図る。
	・ キャリア教育	キャリアノートの積極的活用	D	○キャリア教育年間指導計画の見直しと全学年でのキャリアノート活用。
	・ 体験活動	体験活動を児童の学びにつなげている	A	○活動のねらいの明確化と、事前・事後の学びにつながる授業実践。
	・ 人権教育	役割を持たせ達成感ある活動の工夫、自尊感情の高まり	A	○達成感を味わわせる活動の工夫と教師の共感的なかかわり。
	・ 特別支援教育	要支援児童のアセスメント、組織的なきめ細かい教育支援	A	○「個のアセスメント」の取組の推進と、学級づくり授業づくりへの活用。
	・ 環境教育	地域人材や学習資材の活用、児童の実践力の向上	A	○自然や人、ものに直接出会う場、発信する場の設定の工夫。
	・ 安全教育・防災教育	教職員の状況判断力の向上、児童にとって実効性ある避難訓練	A	○様々な場面の設定による、危険予知力、回避行動力の育成。
	・ 健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	眠育の視点からの生活習慣定着、市準備運動・運動タイム活用	B	○眠育の推進(教職員の研修と保護者への啓発)、PTAの取組との連動。
	・ 読書活動	読書週間の定着	B	○チャレンジ50への記入の意識化を図る。

5 自己評価方法(児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等)についての意見・改善点

評価項目をできるだけ焦点化・具体化し、保護者の関心のある項目が設定されており、保護者の思いを知る大変重要な取組である。児童についても先生との関係性や学習・生活など具体的な評価項目とした。今後も継続した実施が望まれる。

6 総合的な外部評価

- ・ 子どもたちは落ち着いた状況の中で学校生活を送っていることが推察できる。
- ・ 不登校、いじめにチームとして対応するなど、教職員の連携がしっかりと図られている。
- ・ 教職員の働き方改革の推進のために、取組や行事の精選等、学校とPTAや地域がお互いに理解し合うことが大切だ。
- ・ 不登校の子どもを出さないために、眠育の取組は興味深く、特に生活習慣が乱れている児童にとっては効果が期待できる。
- ・ 全ての評価項目において、成果を踏まえた上で課題が捉えられている。A判定の項目についても、改善の取組の具体的な内容に踏み込まれており、安心感、期待感を持っている。

自己評価の妥当性
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員が課題を明確にとらえ、具体的な方策を着実に進めるPDCAが機能していることは評価できる。 ・ 保護者の声を学校運営に生かす仕組みができています。 ・ 教育課程の継続的な取組、工夫された取組により、安定感のあるものとなっている。道徳の教科化も楽しみである。 ・ 安全、防災教育、道徳教育といった人間生活の基盤の重要部分をさらに充実させる方向での取組を期待したい。 ・ 職員の勤務の在り方については、働き方改革が叫ばれている中で再点検が急務である。学校だけでなく、PTA、地域の協力や理解を得て、常識的な勤務の状態を保持できるように望む。定時退勤の時刻も18:30に設定しているが、もっと早く設定しないと、早く帰ることにならない。教員自身の意識改革も必要である。 ・ 不登校が中学校でも多いと聞く。睡眠も含めて、家庭での関わりが非常に大事だ。その点で、眠育の取組は興味深い。 ・ 眠育について、研修にも参加したことがあり期待するところだ。家庭、地域、学校が揃って取り組む必要がある。 ・ 肯定的な関わりを基盤とした学習指導、生活指導が行われており、保護者にもその取組がよく伝わっている。 ・ 地域での子どものあいさつが少ないと聞く。学校と連動した家庭での指導、保護者の関わりが一番重要だ。交通事故防止、防犯対策にもあいさつは有効だ。

※上記の評価の観点は市統一とするが、各校で特色

※評価項目は各校の実態に応じて設定するが、ある活動・重点項目を追加してもよい。

外部評価者が理解しやすい具体的内容の記述に努める。